人文社会科学部後援会事業実施報告

経済地理学ゼミナール
（人文社会科学部・メジャー専門ゼミナールⅠ）

- 申請教員：松尾卓磨（現代社会学科 国際・地域共創メジャー 講師）
- 事業番号：１－４３
- 実 施 日：２０２６年7月１８日（土）
- 場　　所：東京都千代田区東京駅・皇居周辺、中央区築地、台東区浅草界隈
- 内　　容：日帰りゼミ巡検
- 参 加 者：３年生８名、引率教員（松尾）

ゼミナール授業の一環として東京都内において日帰りの巡検を行った。ゼミに所属している３年生が参加し、人文地理学の知識や視点を活かしながら、地域・場所・景観の歴史と現状に関する地理学的洞察力を養うことを目的として、東京都千代田区の皇居周辺、中央区の築地、台東区の浅草を訪問した。東京駅丸の内駅前広場に集合したのち、まずは皇居周辺の散策を行った。大手門から入り、皇居の東側に位置する二の丸付近を通って平川門へと抜ける道のりの中で、近代的な高層ビル群と歴史ある空間・豊かな緑が隣り合う都市景観のコントラストに目を向けた。続いて訪れた築地では、まず築地本願寺の内部を見学し、その特徴的な建築や空間がまとう荘厳な雰囲気に触れた。その後、築地場外市場を散策した。市場移転後もなお食の拠点として独自の活気を保ち続け、多くの人で賑わう雰囲気を肌で感じることができた。午後は浅草へと移動し、雷門および仲見世商店街周辺の散策に加え、浅草文化観光センターを見学した。施設からの俯瞰的な視点も交えつつ、国内外からの多くの観光客で混雑する歴史ある門前町が、現代において巨大な観光空間としてどのように消費され、機能しているのかを観察した。猛暑の中での巡検となったため、学生たちはこまめな水分補給に努めながら熱心に街の様子を観察・記録していた。机上の学びにとどまらず、実際の都市空間を歩き、その場の空気感や人々の営みを直接体感することこそが、地理学的思考を深める上で不可欠であることを改めて実感する充実した巡検となった。

２０２６年１０月０５日 松尾卓磨



千代田区　東京駅丸の内駅前広場
集合場所となった東京駅丸の内駅前広場です。復原された歴史ある赤レンガ駅舎のすぐ背後に、巨大オフィスビルが林立しています。首都の玄関口を象徴する、過去と現在が交錯する景観から今回の巡検がスタートしました。



千代田区 皇居
大手門から入り平川門へ抜けるルートを散策しました。お堀や重厚な石垣、見事に整えられた植栽と、すぐ隣に壁のように迫る近代的な高層ビル群との対比に、東京という都市が持つ空間的な特異性を強く感じました。



中央区 築地本願寺
場外市場へ向かう前に築地本願寺を見学しました。古代インド仏教様式を取り入れた特徴的な外観や、荘厳な本堂の内部空間を観察し、すぐ近くの市場の喧騒とは一線を画す静謐な空気感を味わうことができました。



中央区 築地場外市場
昼食を兼ねて訪れた場外市場の様子です。海鮮を扱う店舗が所狭しと並び、国内外からの観光客でごった返していました。豊洲への市場移転後も、食の拠点としての独自の活気と熱気は健在でした。有名寿司店での昼食が至福の時間となりました。



台東区 浅草雷門
午後は日本を代表する観光地である浅草へ。巨大な赤提灯が目を引く雷門の周辺は、記念撮影をする多様な国籍の観光客で溢れかえっていました。浅草文化観光センターからの俯瞰的な視点も交えつつ、観光空間の全体像を捉えました。



台東区 浅草仲見世商店街
雷門から宝蔵門へと続く仲見世商店街の様子です。前に進むのも困難なほどの人混みの中を歩き、歴史ある門前町が現代において巨大な観光空間としてどのように消費され、これほどまでの集客力を持つ場として機能しているのかを現地で観察しました。

（撮影・説明　松尾卓磨）